

# 教育ニュースレター vol.5



7月13日にレベル I 研修を行いました。  
夜勤も立ち始め、一人で患者さんの観察やケアを行う機会も増えてきたと思います。患者さんの身体状態を把握したり、実践したケアの効果や反応を観察するために重要なのがフィジカルアセスメントです。ひまわり病棟では呼吸状態の観察が身近と考え、研修では呼吸器系の基本的なフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーションを学習しました。



肺の解剖を意識して、どの部位を聴取しているのかを考えます

## 研修の内容

- 講義：フィジカルアセスメントの意義・目的**  
 “身体状態の解釈や分析すること”を、普段の看護場面を想定して考えました。
- 動画視聴：呼吸器系のフィジカルアセスメント**
- 演習：呼吸器系のフィジカルイグザミネーション**  
 ペアを組んで演習をしました。動画の技術をなぞりながら、視診・触診・打診・聴診を実際に行いました。



前面

背面

	正常音	聴診部位		正常音	聴診部位
気管(支)音	①②③④		気管(支)音	該当なし	
気管支肺胞音	⑤⑥		気管支肺胞音	①②③④	
肺胞音	⑦⑧⑨⑩		肺胞音	⑤⑥⑦⑧	

患者さんのSpO2が低下したとき、何を観察する？



呼吸回数、  
顔色、  
呼吸音・・・

### 看護がみえる 3

VISUAL GUIDE to NURSING Vol. 3

#### フィジカルアセスメント

メイン 呼吸 循環 神経 ほか  
写真・動画・音声もみえる！  
みえます、根拠！

今回使ったテキストです  
QRコードを読み取れば、  
スマホやタブレットで視  
聴できます

## 病棟へ

研修ではお互いの身体を見て・触れて・聴いてと、基本的な人体の構造に照らして学習をしました。ひまわり病棟の患者さんは、骨の変形や拘縮などにより一人一人異なりますね。対象の骨格や肺の大きさ、位置を考えながらアセスメントできるよう、日々のケアにイグザミネーションを活かしてください。たとえば喀痰が貯留しているようなゴロゴロとした音がきこえたら、打診や聴診で貯留している部位を特定して、必要なケアを考えることにつながります。このように現場で日常的に使う技術として身につけられるよう、ケアの前後で効果を判定する場面など、意図的に問いかけてあげてください。